

MARUITI
TONKATSU YAKISOBA
www.maruuti.com.br

DIRETOR PRESIDENTE
RAUL M. TAKAKI
JORNALISTA RESPONSÁVEL
TAKAO MIYAGUI

ニッケイ新聞

NIKKEY SHIMBUN

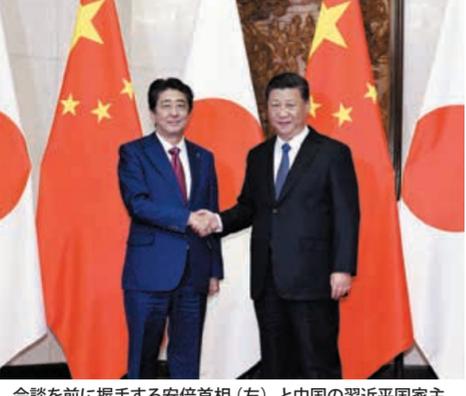
国内 引越は日通
海外 通 11-3583-3882

ANO XXI - Nº 5112 SÃO PAULO, SÁBADO, 27 DE OUTUBRO DE 2018 R\$ 4,00

日中、新時代の関係構築

首相、習主席と一致 第三国開発で協力

【北京共同】島成慎太郎（安倍晋三首相）は26日夕（日本時間）、中国・北京の釣魚台迎賓館で習近平国家主席との首脳会談を行い「新たな時代」の日中関係を構築する方針で一致した。関係強化へ来年の訪日を要請し、習氏は「真剣に検討したい」と答えた。第三国でのインフラ開発協力や北朝鮮の非核化に向けた連携で一致。首相は沖縄県・尖閣諸島周辺での中国船の領海侵入を踏まえ、状況の改善を求めた。両首脳は意思疎通を強化し、不測の事態を回避すること一致した。



会談を前に握手する安倍首相（左）と中国の習近平国家主席。26日、北京の釣魚台迎賓館。（代表撮影・共同）

首脳会談で安倍首相は「競争から協調へ」「脅威でなく協力のパートナーに」「自由で公正な貿易の推進」と三つの新原則を提案。「世界の平和と安定のため、力を合わせて貢献していきたい」と強調した。習氏は「両国関係は正しい軌道に戻り、前向きな勢いを見せている」と応じた。だが、

【共同】米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設の賛否を問う沖縄県民投票条例が26日、県議会で行われた。米軍普天間飛行場の辺野古移設に賛成する市議員が多数で決まった。米軍普天間飛行場の辺野古移設に賛成する市議員が多数で決まった。米軍普天間飛行場の辺野古移設に賛成する市議員が多数で決まった。

【共同】岐阜県が開発した糖度の高い高級柿「天下高舞」の初競りが26日、名古屋市中中央卸売市場北部市場（愛知県豊山町）で行われ、最高

劇作の山崎氏らに文化勲章 作曲一柳氏、陶芸今井氏も

【共同】政府は26日、2018年度の文化勲章を、劇作・評論の山崎正和（84）、作曲の今井慧（85）、陶芸の今井政之（87）、租税法の金子宏（87）、情報工学の長尾真（82）の5氏に贈ることを決めた。文化功労者には小説随筆の阿刀田高（83）、スポーツの笠谷幸生（75）、歌舞伎の片岡仁左衛門（74）、大衆音楽・音楽著作権の都倉俊一（70）の4氏ら20人を選んだ。

功労者に阿刀田氏や笠谷氏

【共同】文化功労者は、阿刀田高（83）、笠谷幸生（75）、片岡仁左衛門（74）の3氏に贈られる。阿刀田氏は、小説の『山崎正和』で知られる。笠谷氏は、スポーツの功労者として知られる。片岡仁左衛門氏は、歌舞伎の功労者として知られる。

辺野古賛否、県民投票へ 沖縄条例可決、来春までに

【共同】米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設の賛否を問う沖縄県民投票条例が26日、県議会で行われた。米軍普天間飛行場の辺野古移設に賛成する市議員が多数で決まった。

信長ゆかり高級柿54万円

【共同】岐阜県が開発した糖度の高い高級柿「天下高舞」の初競りが26日、名古屋市中中央卸売市場北部市場（愛知県豊山町）で行われ、最高

野で世界をリードする独自の視点による作品を次々と発表

山崎氏は劇作家として独自の視点による作品を次々と発表。評論家としても多岐にわたる見識を示し続けた。一柳氏は、現代音楽の発展に貢献した。陶芸の今井政之氏は、陶芸の発展に貢献した。

安堵や期待、反発も 再稼働に地元や市民団体

【共同】「稼働で町は活性化する」「安全に暮らすのは私たちの権利」として、再稼働を歓迎する声もあふれた。一方、東京電力福島第一原発事故から約7年経った今、市民団体が再稼働を反対する声もあふれた。

地方自治法は条例制定に際し、市町村長と協議

【共同】地方自治法は条例制定に際し、市町村長と協議することを目指す。条例制定には、市町村長と協議することを目指す。

結核控え、宮中三殿を参拝

【共同】高円宮家の三女絢子さま（28）が26日午前、歴代天皇や皇族の霊、神々を参拝する。結核を控え、宮中三殿を参拝する。

介護記録を自動化

【共同】九州工業大（北九州市）は26日、携帯するスマートフォンなどの加速度センサーを使って介護記録を自動化する技術を開発した。自動化された介護記録は、介護士の手を解放し、より多くの高齢者に介護を提供できるようにする。

競り落とされた柿は松坂屋古屋店の果物店に

【共同】岐阜県が開発した高級柿「天下高舞」が26日、名古屋市中中央卸売市場北部市場（愛知県豊山町）で行われた競りで、松坂屋古屋店の果物店に競り落とされた。競り落とされた柿は、松坂屋古屋店の果物店に競り落とされた。

「命を守れ」とシユブレ

【共同】九州工業大（北九州市）は26日、携帯するスマートフォンなどの加速度センサーを使って介護記録を自動化する技術を開発した。自動化された介護記録は、介護士の手を解放し、より多くの高齢者に介護を提供できるようにする。

FÉRIAS ANIMADAS 2018

"Pacote de 13 dias" 02 de julho
Roteiro: Osaka, Kyoto e Tokyo
ALFAINTER TURISMO
Visite nosso site: www.alfainter.com.br

TUNIBRA TRAVEL

社員大募集!!
TUNIBRA TRAVEL renovando e realizando suas viagens!

ボウソナ口有利で明日へ

決選投票

ハダジは6%P詰めるも

依然として12%Pの差

28日の決選投票目前の大統領選や知事選の世論調査の結果を、ダツタフオリヤが25日に発表した。大統領選ではジャイル・ボウソナ口氏(社会自由党・PSL)が有効票の56%の支持を得、リードしたままで決選投票を迎えることになったと、26日付フオリヤ紙が報じている。

聖州知事選は予断許さず

今回の調査は、ナロ氏の支持率は前回24、25日に全国17、18日に記録した50%から微減し、それによると、ボウソナ口氏は48%に下がった。



25日のボウソナ口氏 (Fernando Frazaõ/Agencia Brasil)

その一方、対抗のフェルナン・ハダジ氏(労働者党・PT)は、前回の35%から38%に支持率を上げた。この背景には、ボウソナ口氏の支援企業のアルヴァン社などがワツアップを流す契約を結んでいた疑惑や、長男で下議院のエドゥアルド氏が「最高裁を軍で閉鎖するのは簡単だ」と7月に発言していた事実が発覚したこと、ボウソナ口氏自身が聖州の集会で「左翼をこの国から追い出す」と発言したことなどが響いている。

ボウソナ口氏の支持率が下がったのは特定地域にだけ限られている。一方、聖州知事選では、ボウソナ口氏の支持率が下がったのは特定地域にだけ限られている。

ボウソナ口氏は中伯戦略を誤解

在伯中国大使館の高官が語る

ク氏は、来月上海で開かれる第1回国際中国輸入博覧会に関する記者会見において、「私たちは中伯関係の強化を意図している」と発言した。ボウソナ口候補は今年9日にTVインタビューで「発電部門の公社株は中国資本に売らない」と発言していた。

ク氏は、ボウソナ口氏が「台湾問題は中国の内政問題、国民にとって極めて繊細な問題。中国の主権に関わる」とした。中国は「台湾を自国領土の一部」と主張している。

ボウソナ口候補の協力者、米州大学教授のマルコス・トリアスは「台湾訪問は中伯関係の強化を意図している」と発言した。ボウソナ口候補は今年9日にTVインタビューで「発電部門の公社株は中国資本に売らない」と発言していた。



今年7月に会談した、中国の習近平国家主席(右)と伯国のテメル大統領(左) (Cesar Iltiberé / PR)

ク氏は、ボウソナ口氏が「台湾問題は中国の内政問題、国民にとって極めて繊細な問題。中国の主権に関わる」とした。中国は「台湾を自国領土の一部」と主張している。

ボウソナ口候補の協力者、米州大学教授のマルコス・トリアスは「台湾訪問は中伯関係の強化を意図している」と発言した。ボウソナ口候補は今年9日にTVインタビューで「発電部門の公社株は中国資本に売らない」と発言していた。

東西南北

ドリア氏(民主社会党・PSDB)が現知事のマルシオ・フランサ氏(ブラジル社会党・PSB)を52%対48%でリードしているが、その差は誤差の範囲内、引き分けとなっている。

また、リオ州では新人のウイリソン・ウイッセル氏(キリスト教社会党・PSC)が56%対44%で、元リオ市長のエドゥアルド・パエス氏(民主社会党・DEM)をリードしている。

ミナス・ジェライス州でも、新人のロメウ・ゼマ氏(ノウチ)が元知事のアントニオ・アナスタシア氏(民主社会党)をリードしている。

重傷で入院中の企業家死亡

【既報関連】聖州市警の要請で、連邦警察がミナス・ジェライス州ジュイナス・デ・フオリアで19日に起きた聖州市警とミナス州市警の銃撃戦の捜査に乗り出した。26日付ボウソナ口氏は今回、拒絶率を41%から44%にあげた。

一方、聖州知事選では、ボウソナ口氏の支持率が下がったのは特定地域にだけ限られている。

ボウソナ口候補の協力者、米州大学教授のマルコス・トリアスは「台湾訪問は中伯関係の強化を意図している」と発言した。

ボウソナ口候補は今年9日にTVインタビューで「発電部門の公社株は中国資本に売らない」と発言していた。

妊婦、母親は自宅拘留に

最高裁(STE)第2小法廷は今年2月、「判決の出していない、妊娠中

の女性が自宅に滞在し、妊娠中

の女性が自宅に滞在し、妊娠中

の女性が自宅に滞在し、妊娠中

国民の47%が情報信じる

ダツタフオリヤの最新世論調査によると、国民の47%が、ワツアップに流れた情報を「信じている」と回答していた。

ダツタフオリヤの最新世論調査によると、国民の47%が、ワツアップに流れた情報を「信じている」と回答していた。

ダツタフオリヤの最新世論調査によると、国民の47%が、ワツアップに流れた情報を「信じている」と回答していた。

ダツタフオリヤの最新世論調査によると、国民の47%が、ワツアップに流れた情報を「信じている」と回答していた。

ムクナG
Muccuri Mucuna G

「ドーパミン」とバランスよい栄養成分で気分爽快!
体力的にも精神的にも年齢を感じなくなった方におすすめ!

42リアル (150g入)

健康食品

【こんな方にオススメ】

- ・物忘れしやすくなり、記憶力が衰えてきた。
- ・集中力、注意力が弱まり、何事にも感動しなくなった。
- ・ストレスがたまって気持ちが前向きになれない。
- ・動作が鈍く、足腰が弱くなった。
- ・寝つきが悪く、疲れが残るようになった。

ニッケイ新聞編集部で販売中!
問合せ: (11) 3340-6060

ムクナ豆とガラナの焙煎粉末を組み合わせました

中高年向け

健康食品

★ 週末バス旅行・日本語添乗員同行 ★

イピラ温泉& ホテルリゾート・ダ・イリマ

発: 11月23日(金)
帰: 11月25日(日)

バスでの移動/宿泊/全食付き

ホテル内施設を堪能 (サウナ、温水プール、ミニゴルフ、スパ、エコトレッキングなど)

R\$ 820,00
ツインルーム使用、お1人様料金

PASSAGENS AÉREAS PARA O JAPÃO
CONSULTE-NOS

VISTO | KOSEKI | RAIL PASS
PROVIDENCIAMOS PARA VOCE

SERVICE GLOBAL TURISMO

日本語対応
スペシャルダイヤル
(11) 3572-8961

INFORMAÇÕES E RESERVAS
www.serviceglobal.com.br
(11) 3572-8990

日本移民の為に
生涯を捧げた
苦勞の歴史
上塚周平の生涯

História do UETSUKA SHUHEI
日本語版特別価格
R\$ 25,00

ニッケイ新聞社
15周年記念

お問合せ・お申込は(11)3340-6060

“RYO MIZUNO”
- Precursor da Imigração Japonesa -

水野龍

日本語版特別価格
R\$ 25,00
日本語に日本語を併記

移民事業の先鞭を付け
ブラジルを
こよなく愛した
水野龍の伝記

国際派日本人養成講座
伊勢雅臣

なぜ世界最古の土器が日本列島から出土するのか？

1万年以上も自然と共生し、平和が続いた縄文時代は「文明先進国がどこも体験することのできなかつた貴重な時間」だった。

1. 日本列島から出土した世界最古の土器の二つ

東京・上野の国立博物館での縄文展を見た。大変な人気である。特に中国やメソポタミアなどの土器との比較もできるように、縄文時代の火炎土器は年代もはるかに古いのに、立体的な造形美は比較にならないほど美しかった。また、細かい縄紋すなわち細目の模様の精巧さにも驚かされた。

2. 縄文人たちの「持続可能な開発」

従来の文明観では、石器時代の人類は狩猟・採集による移動生活を送っていたが、約1万2千年前から定住生活ができるようになり、そこから文明が始まったというのだった。

3. 数百種類の食材を旬を考えながら採っていた

縄文人たちは自然の恵みをただ受けとっていたのではない。それぞれの品目に「旬」を知って採っていたようだった。

4. 定住と知識・技術の進化

縄文人の食の多様性をさらに大きく広げたのが土器だった。土器による煮炊きによって、木の実のアクを抜き、植物の根や葉を柔らかくして食べやすくし、魚や獣の肉の腐敗を防げるようになった。土器は保存

※これを読めば自然に、日本の文化や歴史に関心がもてるような話を毎週掲載しています。より多くの二世の方や日本語学習者に読んでもらい、少しでも日本に興味を持ってもらえるよう、最寄りの日本語学校や日系団体の掲示板に張ったり、普段は邦字紙を読んでいない兄弟や子や孫などに記事を紹介してください。
(ニッケイ新聞編集部)

容器としても、通気性や通水性にちよって表面の水分が気化して低温を保つので、食物の長期保存を可能とした。

縄文人たちは定住することで、大きな重い土器を作り、使うことができるようになった。一定の場所から粘土を見つけ、それを形にし、火で焼くという作業は定住していなければできなかった。

また、定住生活では身体が弱ったお年寄りも脱落することなく、その経験や知識を次の世代に伝えることができる。それによって様々な食材を食べられるかどうか判別し、いつどこで採ったら良いかを考え、という知識と経験の積み重ねが容易になった。土器の発達も、定住生活ができるようになったから加速したであろう。

定住が土器を発達させ、食材に関する知識を蓄積できるようにした。逆に土器と食材に関する知識が定住を可能とさせた。この定住と技術・知識の蓄積は、車の両輪として暮らしの進歩をもたらしたようだった。

こうして自然の中に抱かれて暮らしていた縄文人の世界観は、また独特のものであった。それを明治学院大学・武光誠教授は「円の思想」と表現している。「自然界ですべてのものが互いに深くつながって存在している」という世界観である。

夏が終われば秋の山野の恵みが、冬が終われば春の食物が現れる。縄文人は、人間とは、このような終わりのない自然界の恵みによって生かされている存在なのだと考えた。「3, P26」

動物も魚も貝も木も草も、生きとし生けるものはすべて精霊が宿っている。人間もその一部である。その精霊の命を少しだけ戴いて自分たちは生かされている。その無限の命の循環の中に自分たちは暮らしている。とすれば、魚を取り尽くしたり、獣を小さいうちに食べてしまおうなどということは、縄文人にとっては許されない行為であった。

森を切り払って畑にしたり、牛のための牧草地にしてしまおう農耕・牧畜の民よりも、はるかにエコロジカルな世界観である。1万年以上も間、自然と共生してきた生活の基盤には、こういう生命観があった。

自然に抱かれた縄文人たちは「自然との共感共鳴」を以てして、それが日本語の中にも残っていると小林達雄・國學院大学名誉教授は指摘する。日本語は擬音語、擬声語が豊かなのが特徴だ。川が「さらさら」流れる。風が「そよそよ」吹く、などである。小林教授はこう語る。

風が「そよそよ」吹くというのがありますが、あれは風が吹いて、音を立てているのではない。ささやいてるのです。

どういふことかと言うと、音を聞き耳を立ててキャッチしているのではなく、自然が発する音を聞いて

いるのです。音ではなくて「声」です。・・・「4, 127」

縄文人は、人間同士で互いに語り合うように、自然の「声」にも聞き入っていたのである。

人間が自然の円の中で生かされているとすれば、人間同士もその円の中で、生まれ、育ち、年老い、そして子孫を残して死んでいくものであった。そこには階級分化もありえず、すべての人間は平等だった。

縄文人は集落の中心に円形の広場を作り、そこで自然を司る精霊を祀った。そして、その周りに竪穴住居を円形の形に配置した。どの家も神聖な広場からは等距離である。このような「環状集落」は5千年前から、東北地方から中部地方まで広い範囲で作られた。

後に神社ができると、その祭りで、歌や踊りに興じたり、神輿とともに練り歩いたりするようになった。縄文時代から同様の祭りがあつたらう。特に盆踊りは「円」を作って、一緒に回る。こうして、みんな一緒に楽しむと共に、精霊たちを喜ばせた。

人間が明るく楽しく過ごすことが、精霊に活力を与えて元気にする最も大切なこととされた。特に縁ある男女が結ばれて、明るい気持ちで仲良く過ごす、多くの子供をつくる事を縁産と呼び、人々は夫婦になつた二人を祝福して、賑やかな婚礼を開いた。「円」は「縁」でもある。

縄文時代には各地の集落間で広域の交易が行われていた。新潟県魚川市の山中で上質なヒスイが採れるところがあるが、このヒスイを用いた勾玉の祭器が日本全国から出土している。

また、秋田、山形、新潟の油田地帯では、石油が地上に染み出してできたアスファルトが採れる。このアスファルトは、石の矢尻を矢柄の先端にくっつけた、壊れた土器を修理する接着剤として使われるが、これらアスファルトを使った出土品が北海道南端から、東北地方全域、北陸地方に及ぶ広い範囲で見つかられている。

こうした交易がどのようになされたのか。たとえば青森の三内丸山の集落で祭祀にヒスイが必要となると、集落の中から選ばれた勇者たちがヒスイの採れる新潟の糸魚川近辺まで出かけていく。そういう旅人が来ると、糸魚川の住民は快く場所を教える。すべての自然物は精霊の恵みなので、彼らが独占すべきものではないから。

武光誠教授は、これが「旅」の始まりだと指摘する。「旅」とは「賜へ」すなわち「何かを下さす」という言葉から出た。自分が欲しい物がある所に行つて、その集落に「何々を賜へ(ください)」とお願いする行為が旅だった。

旅人たちは、糸魚川の住民に自分たちの集落の話をする。そこから、自分の集落から何か、お返しに持つてこれる物を知る。そして、次回、ヒスイを求めてまた旅人がやって来る時には、それを贈り物として持参するのである。

こうして旅人は、貴重な情報や贈り物をもつてきてくれる。「まれにしか来る」といふ大切な客人と歓迎された。これが「まれ人」の語源である。

縄文時代には、このように全国の村落が交易・交流、友好のネットワークで結ばれていた。これも「円の思想」の表れであろう。

1. 1万年以上も自然と共生し、平和が続いた縄文時代は「文明先進国がどこも体験することのできなかつた貴重な時間」だった。

2. 縄文人たちは自然の恵みをただ受けとっていたのではない。それぞれの品目に「旬」を知って採っていたようだった。

3. 定住が土器を発達させ、食材に関する知識を蓄積できるようにした。逆に土器と食材に関する知識が定住を可能とさせた。この定住と技術・知識の蓄積は、車の両輪として暮らしの進歩をもたらしたようだった。

4. 縄文人の食の多様性をさらに大きく広げたのが土器だった。土器による煮炊きによって、木の実のアクを抜き、植物の根や葉を柔らかくして食べやすくし、魚や獣の肉の腐敗を防げるようになった。土器は保存容器としても、通気性や通水性にちよって表面の水分が気化して低温を保つので、食物の長期保存を可能とした。

5. 縄文人たちは自然の恵みをただ受けとっていたのではない。それぞれの品目に「旬」を知って採っていたようだった。

6. 定住が土器を発達させ、食材に関する知識を蓄積できるようにした。逆に土器と食材に関する知識が定住を可能とさせた。この定住と技術・知識の蓄積は、車の両輪として暮らしの進歩をもたらしたようだった。



青森県大平山元遺跡で出土した草創期の土器片

森を切り開いて畑にすれば、樹木がなくなつてやがて表面の土壌が失われてしまう(水田は別だが)。牧畜でも家畜が草の芽まで食べてしまうので、植生が失われ、土壌が劣化する。それに比べれば、縄文人た

ては1万年以上もこの日本列島で暮らし、しかも豊かな自然を残してくれたのである。

近年、国連が「持続可能な開発」(SUSTAINABLE DEVELOPMENT) という概念を打ち出したが、縄文人たちの生活はまさにそのお手本なのである。

縄文人たちは自然の恵みをただ受けとっていたのではない。それぞれの品目に「旬」を知って採っていたようだった。

縄文人たちは自然の恵みをただ受けとっていたのではない。それぞれの品目に「旬」を知って採っていたようだった。

縄文人たちは自然の恵みをただ受けとっていたのではない。それぞれの品目に「旬」を知って採っていたようだった。

国際派日本人養成講座 伊勢雅臣氏の厳選シリーズ第3弾!
世界が称賛する日本の経営

1冊100レアル 限定販売 残りわずか!

世界が称賛する日本の経営 伊勢雅臣

近年の日本企業は、欧米の株主資本主義の経営こそ最新の経営と見込み、「三方良し」を追求する日本の経営を時代遅れと考えているようである。

しかし、人間が成長する存在であることを考えれば、日本の経営の方が経済のパフォーマンスも高く、人や社会を幸福にするパワーもはるかに優れている。今日の優れた欧米企業はそのことに気づかず、日本の経営を唱導し、退かしていき、

本書は、先人の足跡をたどることで、読者に日本の経営とは何かを思い出してもらおうことを目的としています。それができれば、日本の企業人、企業、日本国全体が、活力を取り戻すこと信じています。

【お問い合わせ】ニッケイ新聞編集部 TEL: (11) 3340-6060
【郵送の注文は日系書店まで】太陽堂:(11)3208-6588 / フォノマギ竹内書店:(11)3104-3399 / 高野書店:(11)3209-3313

国際派日本人養成講座 伊勢雅臣 (文責)

Mail: ise.masaomi@gmail.com
Twitter: https://twitter.com/ise_masaomi
無料購読申込・取消: http://blog.jog-net.jp/

そのような世界でもユニークな1万年以上の時間を経験した我々は、そこで学んだ事を世界に示していく責務がある。

「4, 131」

た貴重な時間だったとも言えます。

リンク

A. 「いのちの結び」現代科学と日本文明、伊勢雅臣、世界が称賛する日本人の知らない日本、育鵬社、H28

【参考文献】

1. 『日本の歴史01 縄文の生活誌』、講談社学術文庫、H20

2. 上田篤「縄文人に学ぶ」、新潮新書、H25

3. 武光誠「日本人なら知っておきたい日本」、育鵬社、H30

4. 小林達雄「縄文文化が日本人の未来を拓く」「電子特別版」、徳間書店、H30

5. 『中学社会新しい歴史教科書 新版「平成28年度採用」』、自由社、H27

特別寄稿 新風が吹きぬけた統一選挙

聖市在住 諸川有朋

10月13日記

選挙により、国民に合った政治家が選出されると言われ、国の政治が良くなるのも悪くなるのも、元々は国民の責任であると言われ、私達日本人は選挙から「清き一票を」とよく聞かれた。

10月28日の大統領選挙に、決戦投票に望む上位二人の候補者、フェルナンド・ハダジとジャイル・ボウソナロの経歴と施政方針が詳しくインターネット上で広報されており、

10月13日の世論調査によると、ハダジ氏が東部地方でボウソナロ氏が有力となり、全体の42%がハダジ氏、58%がボウソナロ氏を支持していることが公表されている。

10月13日の世論調査によると、ハダジ氏が東部地方でボウソナロ氏が有力となり、全体の42%がハダジ氏、58%がボウソナロ氏を支持していることが公表されている。

ボウソナロとはどんな人物か?

10月22日記

ボウソナロとはどんな人物か? 10月22日記

ボウソナロとはどんな人物か? 10月22日記

ボウソナロとはどんな人物か? 10月22日記



ボウソナロ大統領候補 (Fernando Frazão/Agencia Brasil)

ボウソナロとはどんな人物か? 10月22日記

ボウソナロとはどんな人物か? 10月22日記

選挙の数字

選挙の数字

選挙の数字

選挙の数字

Table with 2 columns: Time, Program Name

Diplomacia (26/10/2018)

Premiê japonês diz que relações sino-japonesas entram em uma nova fase

O primeiro-ministro japonês, Shinzo Abe, diz que a relação entre o Japão e a China está entrando em uma nova fase, mudando da condição de competição para a de cooperação. Ele terminou as conversações com o premiê chinês Li Keqiang, nesta sexta-feira.

Abe é o primeiro premiê japonês a fazer uma visita oficial a Pequim em sete anos, em meio às melhoras das relações entre os dois países.

Em uma entrevista à imprensa, Abe disse o seguinte: “O Japão e a China são fortes parceiros e não serão uma ameaça um ao outro. O premiê Li e eu reafirmamos este princípio nas conversações que tivemos há pouco.”

Por sua vez, o premiê chinês Li afirmou: “Necessitamos avançar para sempre as relações sino-japonesas e nos asseguramos de evitar novos contratemplos”. Abe citou que as duas partes se comprometeram a trabalhar para assegurar a segurança nas águas.

Ele disse: “Concordamos em cooperar para lidar com os acidentes marítimos no Mar da China Oriental e trabalhar para a expansão de um mecanismo de comunicação, estabelecendo rapidamente uma linha direta entre as autoridades do setor de defesa, de modo que possamos fazer o Mar da China Oriental um mar de paz, cooperação e amizade”.

Li disse que eles concordaram, também, com relação

à importância do livre comércio.

Ele disse: “A situação ao redor do mundo é instável, com aumento de incertezas e uma crescente tendência contra a globalização. Concordamos que, como países que têm grande influência na região e no mundo, precisamos ativamente proteger o livre comércio”.

Outra questão chave que eles discutiram foi a da Coreia do Norte.

Abe disse: “O Japão e a China têm uma grande responsabilidade para assegurar a paz e a estabilidade nesta região. Concordamos em cumprir essa responsabilidade cooperando um com o outro para conseguir a desnuclearização da Coreia do Norte, que é

uma meta comum de ambas as nações”.

Outra prioridade de Abe é solucionar a questão dos sequestros. O Japão mantém que agentes norte-coreanos sequestraram vários cidadãos japoneses nas décadas de 1970 e 1980.

Li declarou: “Nestes últimos tempos, têm havido oportunidades para a realização de diálogos na Península Coreana. Apreciamos esta tendência feita por todas as partes. Ambos concordamos em desenvolver ainda mais a comunicação e a cooperação na questão nuclear norte-coreana. A China apoia os esforços do Japão para melhorar suas relações com a Coreia do Norte através do diálogo e resolver as questões pendentes”.

Diplomacia (25/10/2018)

Palavra-chave: O tratado de paz e amizade entre Japão e China

Neste ano, comemorase o 40º aniversário do tratado bilateral de paz e amizade entre o Japão e a China. Ele foi assinado em 12 de agosto de 1978, com base na normalização das relações diplomáticas em 1972. O tratado diz que os dois países desenvolverão laços de amizade baseados nos princípios de respeito mútuo pela soberania e integridade territorial, além de não agressão mútua. Ele é a fundação das atuais relações entre o Japão e a China.

Desde o estabelecimento de laços diplomáticos, os dois países têm estreitado a interdependência

sobretudo em questões econômicas, mas também se confrontaram por diversas vezes devido a questões históricas e de segurança. As relações bilaterais pioraram há seis anos, quando o governo japonês adquiriu parte das Ilhas Senkaku de um proprietário particular do país, em 2012, desencadeando protestos antinipônicos de grande escala na China. O Japão controla as ilhas situadas no Mar da China Oriental. China e Taiwan as reivindicam. Contudo, recentemente, os laços bilaterais melhoraram até um determinado patamar em que conversações en-

tre líderes e negociações de nível ministerial têm ocorrido com frequência. Segundo o correspondente da NHK, Tomoki Matsuda, por trás do acaloramento das relações está a disputa comercial entre a China e os Estados Unidos. O governo do presidente americano Donald Trump impôs tarifas elevadas sobre produtos chineses como uma medida punitiva. O lado chinês, por sua vez, respondeu com altas tarifas sobre importações americanas. Em meio à piora das relações com os Estados Unidos, a China tenta melhorar os laços com o Japão e outras nações asiáticas.

Matsuda afirma que restaurar uma relação de confiança com o Japão, que é uma potência econômica, é muito benéfica para a China. Ele diz que também é importante que o Japão estreite os laços com a China e seu enorme mercado, já que a população japonesa continua a encolher e envelhecer. O correspondente da NHK declara que Tóquio tem respondido de maneira positiva à mudança de atitude de Pequim.

O governo japonês espera que a ida do premiê Shinzo Abe à China resulte na visita do presidente chinês Xi Jinping ao Japão. Quer ainda ver os líderes dos dois países fazendo visitas mútuas com regularidade e que o Japão e a China fortaleçam as relações bilaterais.

Diplomacia (26/10/2018)

China convida Japão a participar da iniciativa “Cinturão e Rota”

O premiê chinês Li Keqiang convidou o Japão a trabalhar com a China em projetos, tais como o “Cinturão e Rota”, de iniciativa de Pequim, de modo a criar um gigantesca zona econômica. Na quinta-feira, Li falou

em uma recepção realizada em Pequim para comemorar os 40 anos desde que o tratado bilateral de paz e amizade entrou em vigor. O primeiro-ministro do Japão, Shinzo Abe, também participou do evento.

Li disse que os dois países necessitam aprender da visão, sabedoria e coragem dos políticos de gerações anteriores e construir relações mais maduras e estáveis, condizentes com as tendências dos tempos. Ele acrescentou que a

China apreciaria se o Japão de juntasse ao projeto “Cinturão e Rota” e, juntos, promovessem a cooperação em mercados de terceiros países. Também enfatizou que a China e o Japão deveriam liderar um desenvolvimento estável da economia global e que as duas nações necessitam proteger o multilateralismo e o livre comércio.

Transferência de base militar (26/10/2018)

Okinawa vai realizar referendo sobre transferência de base

A assembleia de Okinawa resolveu realizar um referendo sobre um plano para a transferência de uma base dos Estados Unidos dentro da província do sul do Japão. O pleito será realizado dentro de um período de seis meses a partir do anúncio oficial. Na sexta-feira a assembleia aprovou a proposta

com uma maioria de votos. As assinaturas de mais de 90 mil apoiadores do referendo já haviam sido entregues à província em setembro. Os participantes terão de responder se aprovam ou não o plano para transferir a Base Aérea de Futenma de Fuzileiros Navais dos Estados Unidos da área

densamente populosa da cidade de Ginowan para um bairro com menor população da cidade de Nago. Membros dos partidos que apoiam o governador Denny Tamaki votaram a favor do referendo. Em setembro Tamaki havia vencido a eleição para governador da província, e prometido impedir o plano de transferência da base que já havia sido firmado entre o Japão e os Estados

Unidos. A assembleia da cidade de Ishigaki aprovou uma moção de oposição ao referendo no começo de outubro. Alguns dos 41 municípios da província ainda não confirmaram se vão enviar funcionários para a realização do pleito. O governo provincial disse que vai coordenar os municípios para que o referendo possa ser realizado em todas as partes de Okinawa.

Negócios (26/10/2018)

“Loja de conveniência móvel” facilita a vida de idosos em complexo habitacional de Tóquio

Muitos idosos, que moram em áreas urbanas, têm de se deslocar uma distância considerável para fazer compras do dia a dia, devido à falta de supermercados nas proximidades. As chamadas “lojas de conveniência móveis” estão facilitando a vida dessas pessoas. Agora, a Seven-Eleven Japan, que lidera o setor, iniciou o serviço em Tóquio.

Um caminhão visita, duas vezes por semana, um complexo habitacional onde vivem muitos idosos. Estão à venda cerca de 150 produtos, incluindo alimentos. Muitas

dessas pessoas visitaram a loja na quinta-feira, no primeiro dia da operação. Elas compraram pão e comidas prontas. A Lawson e a Familymart, concorrentes da Seven-Eleven, também operam lojas de conveniência do gênero em algumas áreas.

NHK WORLD

JAPAN

Estas notícias são produzidas pela NHK WORLD-JAPAN. nhk.jp/portuguese

Coreia (26/10/2018)

As duas Coreias e o Comando da ONU terminam remoção de armas no vilarejo de armistício de Panmunjom

O Ministério da Defesa da Coreia do Sul declarou que os militares das duas Coreias e o Comando da ONU terminaram a remoção de armas de uma área controlada em conjunto no vilarejo de armistício de Panmunjom. O ministério disse, na quinta-feira, que as três partes terminaram a remoção de armas, munição e postos de guarda da Área Conjunta de Segurança, conhecida pela sigla JSA. As duas Coreias permanecerão tendo 35 ou menos pessoal desarmado em dita zona. A mídia sul-coreana relatou que turistas e outros

serão permitidos a circularem livremente cruzando a fronteira interna da JSA, a partir de mês que vem.

A Área Conjunta de Segurança não fora desmilitarizada desde que soldados norte-coreanos mataram dois oficiais militares americanos no local em 1976.

Na reunião de cúpula intercoreana do mês passado, os dois países concordaram em suavizar a tensão militar. Eles terminaram a eliminação de minas terrestres na zona de armistício, no sábado passado.

Migração (26/10/2018)

Trump mobiliza militares para terminar com migração

O presidente dos Estados Unidos, Donald Trump, declarou que tenciona enviar tropas para a fronteira com o México, de forma a evitar que milhares de migrantes ingressem no país. Autoridades do estado sulino mexicano de Chiapas afirmam que o número de migrantes da América Central rumando para o norte, em direção da fronteira com os Estados Unidos, chegou a 6 mil desde que iniciaram o deslocamento cerca de duas semanas atrás. Trump colocou uma mensagem no Twitter, na

quinta-feira, na qual afirma que os Estados Unidos não vão permitir entradas ilegais. Ele disse que “envolverá os militares para enfrentar esta Emergência Nacional”.

Existem atualmente cerca de 2 mil membros da Guarda Nacional posicionados ao longo da fronteira. A mídia americana afirma que James Mattis, Secretário da Defesa, deverá deslocar pelo menos 800 soldados da ativa para reforçar a proteção da fronteira.

Aplicativos gratuitos da

NHK WORLD

JAPAN

Serviço em português a qualquer hora em qualquer lugar!

NHK WORLD RADIO JAPAN

*Para iOS e Android



セットでお得キャンペーン

『日本文化』5巻まで同時購入で 35%割引!!

195円が160円に

ニッケイ新聞で大好評連載中の「国際日本文化講座」を中心に 日本独自の文化や歴史を 日語で紹介!

日本文化

日本文化1 R\$35,00 日本文化2 R\$40,00 日本文化3 R\$40,00 日本文化4 R\$40,00 日本文化5 R\$40,00

サンパウロ 青年図書館 ニッケイ新聞

ニッケイ新聞 人気シリーズ! プレゼントにも!

お問い合わせ先: 東京 (11-3340-6060) 日本書店でも販売中! 地方発送も出来る! 大阪 (11-3208-6581) フェリス学院前店 (11-3184-3183) 高野前店 (11-3218-3331) 東京 (11-4472-4332)

中津川姉妹都市38周年

友好の絆深め再会誓う

杉本会長「20年は岐阜へ」

レジストロ中津川姉妹都市協会(高橋邦彦会長)が主催する姉妹都市提携38周年レジストロ日本入植105周年、日本移民110周年を祝う式典が20日、レジストロ文協会館で行われ、約130人が盛大にお祝った。首都からはサムエル・モレイラ連邦下議、岐阜県中津川市から青山市長、中津川姉妹都市友好推進協会の杉本潤会長(訪問団団長)ら17人の公式訪問団、聖市からも岐阜県人慶賀祝団13人が参加した。



挨拶する青山市長

冒頭、レジストロのジル・ソウランチン市長は「3年前に私が中津川で歓迎して頂いた感激を、今回日本から来られた皆さんにも感じてほしい。この機会にさらに友好が深まりますように」と挨拶した。マルセロ・コメロン市長も「何度でもご訪問下さい」と歓迎の言葉を述べた。大堀大樹市長は「大変な歓迎で感動している。38年かけて育ててきた友好関係を永く」

「38年間に25万ドル分の援助を主に医療分野に」と述べた。大堀市長は「2人にレジストロ市議会から名誉市民章が贈られ、青山市長から山村純子さんと柳生てるあさんに特別名誉市民証が授けられた。中津川市を紹介するビデオが上映された後、青山市長から郷土が誇る画家・笠木茂さんの絵画がファクシムレで贈られるなど、記念品を交換した。主催の高橋会長は「2020年の再会を期待しています」と呼びかけ、モレイラ連邦下議は今回の選挙で再選されたことを感謝した上で「我々」



岐阜県人会一行(中央が長屋会長)と青山市長(右から2人目)、左が山村連合会会長

は日本移民から礼儀正しき、倫理や道徳などを学んだ。人種差別や民族間流は世界への模範だ」と力説した。地元来場者の清丸米子(85、レジストロ口生まれ)は「私は姉妹都市提携後、81年に最

初の交流団23人の一人として中津川を訪問した。うち存命なのは7人だけ。今思い出しても素晴らしい歓迎で、心から感謝している。三世、四世の世代になってもこの関係を続けてほしい」とほほえんだ。聖市から出席した岐阜県人会の長屋充良会長も「38年の長きにわたって良好な交流を継続してきたのは、関係者の努力のたまもの。提携の発端を作った県人会としても心からその御尽力に感謝し、祝福したい。さらなる発展を」とエールを送った。

「サノイヨイ」も傑作だが、チャチャチャ・パンの歌(おもちゃのチャチャチャ)のメロディでも、タプロイド版4ページだが中身が濃い。最近、東洋のラーメン屋で大量の割り箸を使い捨てられているのを知り、「これはモツタイナイ」と再利用を考え「肩叩き」にしたそう。それを広めるのにこの替え歌まで作ったわけだ。「割り箸チャチャチャ」竹の割り箸チャチャチャ、肩を叩けば軽くなり、腰を叩けば軽く伸び、足を叩けば踊ります。魔法の割り箸チャチャチャ、皆さんも「どうですか？」

大耳小耳

レジストロ中津川姉妹都市提携38周年の式典は、午後6時開始予定だったが、始まったのは7時。どうやら通訳が突然来れなくなり、ドタ

に頂き、本当に感謝おかげで市民が助かっている」と感謝し、中津川の杉本会長も「東京五輪が行われる2020年には中津川にたくさん来てほしい。2027年には時速500キロのリニア新幹線が通じ、地域の活性化と国際化への期待が膨らんでいる。もっこのような交流を深化させていきたい」と語った。青山市長は「市民を主体とした交流が着実に根付き、受け継がれている。2020年の再会を期待しています」と呼びかけ、モレイラ連邦下議は今回の選挙で再選されたことを感謝した上で「我々」

アララクアラ ノロエステ 巡訪

(7)

9月23日、故郷巡り4日目。出発時刻の1時、間前にはほとんどの参加者が荷物を抱え、ロビーで待機していた。その間、故郷巡りの常連でサンパウロ博物館研究会に所属する小山徳さんが、受付の女性に街路樹の名前を質問していた。その女性が度忘れしたと言って、他の職員に聞いて戻ると「オイ、オイ」というバラ科の植物だと言う。その女性は「近くの広場に野生のインコがたくさん。もう見

ましたか」と尋ね、「野鳥観察に旅行客もいる。今度来るときはぜひ見てみて」と教えてくれた。

そんな話をしているうち出発時刻となり、次の目的地であるイリヤ・ソウテイラに向かった。現地に着くと、同市観光局員がバスに乗り込み、車窓から市内観光地を案内してくれた。この日は休日だったため、観光地にも係らず殆どの店が閉まっていた。記念撮影をするというので下車したところ、ベンチに腰掛

の印象を語った。故郷巡りに参加しはじめた理由を聞くと「脳内動脈瘤破裂で主人が下半身麻痺になり、医者からは「もう歩けないかもしねない」と言われ、それで、主人のリハビリのため参加するようになったんです。旅先では色々な人と親睦を深められるし、外に出たいという動機付けにもなるから」と話し、「そういつか住んでいたのよ」とも語り始めた。なんでも「親の遺骨を取りに

ね」と夫と顔を見合わせ、高松さんと話している隣に腰掛けていた婦人が「この辺りにチエテの土を代わりに持って帰った」のだとか。

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで

「近頃の広場に野生のインコがたくさん。もう見ましたか」と尋ね、「野鳥観察に旅行客もいる。今度来るときはぜひ見てみて」と教えてくれた。

そんな話をしているうち出発時刻となり、次の目的地であるイリヤ・ソウテイラに向かった。現地に着くと、同市観光局員がバスに乗り込み、車窓から市内観光地を案内してくれた。この日は休日だったため、観光地にも係らず殆どの店が閉まっていた。記念撮影をするというので下車したところ、ベンチに腰掛

の印象を語った。故郷巡りに参加しはじめた理由を聞くと「脳内動脈瘤破裂で主人が下半身麻痺になり、医者からは「もう歩けないかもしねない」と言われ、それで、主人のリハビリのため参加するようになったんです。旅先では色々な人と親睦を深められるし、外に出たいという動機付けにもなるから」と話し、「そういつか住んでいたのよ」とも語り始めた。なんでも「親の遺骨を取りに

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで



一行が来た会社

トップクラスの若手奏者勢揃い

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで

「住んでいた土地が湖の底に沈み、移転を余儀なくされた日本人も居たんじゃないかしら」そんな話をしているうちに休憩時間も終わり、婦人の名前を聞きそびれたまま、バスに乗り込んで

年金 (INPS) 受取りの 手続きをいたします Fazemos Aposentadoria Fones: 3208-7803 / 3341-7308

PERFUMARIA TAKEO たけお店 化粧品専門 二九四一九三三

お子様の御成長を祈る 七五三祝 着物有ります TEMPLE XINTOISTA DO BRASIL 南米神宮 Rua Estado de Israel, 76 - Vila Clementino SP Tel: (11) 5575-4783 - www.templexintoista.org.br

サンパウロ日伯援護協会 リバレーダデ医療センター ENKYO 日本語で対応します 受付時間 月~金 07:00~19:00 土 07:00~13:00 人間ドック受付 月~金 07:00~16:00 Adesão de novos associados 新会員募集: (11) 3274-6523 お問合せ: (11) 3274-6555 ご予約 (内科以外の各専門科): (11) 3274-6508 人間ドック: (11) 3274-6495 歯科: (11) 3274-6501

サンパウロ日伯援護協会 日伯友好病院 ENKYO 最新設備と専門スタッフを備えた 日伯友好病院は真心込めた医療を あなたへお届けします 24時間受付 内科・外科・小児科 整形外科・心臓外科 他 日本語で対応します 各種健康保険取り 扱っています (日本の保健各種) 日伯友好病院行きバスのご案内 地下鉄Tatuapé駅発172X-10 地下鉄Santana駅発271M-10 Dom Pedro II公園発272N-10 Tel.: (11) 2633-2200 Rua Pistoia, 100 - Pq. Novo Mundo - São Paulo www.hospitalnipo.org.br

Vende-se casa em Sorocaba Mario (011) 99379-3431 Ampla Sala e Cozinha, 1 Suite, 2 Dormitórios e Lavanderia Terreno=1.435m2 AC=220m2 Pomar=20 pés diversos

Rua Fagundes, 121 - Liberdade - São Paulo - SP www.enkyo.org.br

